

令和 8 年度 第 1 回江差町観光まちづくり協議会

令和 8 年 6 月 8 日（月）13：30～

江差町役場 3 階 第 2 委員会室

【事務局員】

それでは皆様お疲れ様でございます。定刻より少し早いですが皆様お揃いとなりましたので、これより第 1 回江差町観光まちづくり協議会を開催させていただきたいと思えます。本協議会につきましては、日本遺産事業および観光 DM0 であります北海道江差観光みらい機構の事業内容など協議検討をする場でございます。

開会にあたりまして、会長から挨拶をよろしくお願いいたします。

【会長】

本日は第 1 回令和 8 年度の江差町観光まちづくり協議会にご出席をいただきましてありがとうございます。雨降りで少し天気が悪く、この週末も江差町内の小学校で運動会が土曜日にあったんですけども、天候が悪くて、翌日である昨日に順延をしたというところで、そういう運動会の季節ではあるんですけども少し不安定な天気が続いているなというところでございます。

このまちづくり協議会は、今司会が説明した通り、観光 DM0 であったり、あるいは日本遺産の事業を展開していく中で様々なお立場からご意見をいただきながら事業を展開していくという趣旨の協議会でございます。そういった中では、今江差町では道の駅の建設が始まって来年の開業に向けて準備を進めているところでございます。それに伴って、観光施設の一つである開陽丸記念館を一時休館させていただいて、来年の道の駅の開業に合わせて今準備を進めているという状況でございます。

この日本遺産事業では新たな観光の商品ということで、検討を重ねてきたものを商品化というところまで来ているところでございます。これをしっかり地域経済の中で活用していくように繋げていかなければならないなというふうに考えています。様々なまちづくり、観光に関する取り組みに関して、それぞれのお立場から様々なご意見をいただきながら、地域経済の活性化に繋げていく、そういう事業に尽力をしてまいりたいというふうに考えています。

本日は、日本遺産の事業と観光 DM0 みらい機構の事業について実施報告あるいは令和 8 年度の事業計画などについてご検討・ご協議をしていただくということとなっています。また、その他として、道の駅の今の進捗状況等を含めて、皆様にご報告をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。江差町には既に道の駅が一つ尾山町にあります。道の駅を二つ抱えるということに来年度以降になっていくといった中では、道の駅の名称などももう確定させて決

めていく、そういう段階に入っているというふうに思っていますので、そういった点の進捗状況についてもご報告をさせていただければと思います。

また、江差町の状況でございますけれども先般、北海道新聞に載りました国の事業の中で、歴史的風致維持向上計画というものを策定することを決定しております。来週ある町議会定例会でこの予算を提案するわけですが、日本遺産事業を中心に、江差を持つ文化資源を活用しながらこれを保存伝承していき、地域の活性化に繋げていくという取り組みを強化してまいりたいというふうに考えているところでございます。この計画を策定し、国から認定をいただくと国からの補助がすごく有利なそういった事業というふうになっております。この日本遺産事業等を含めまして、しっかり観光振興を基軸に、地域の活性化に繋げていきたいなというふうに考えているところでございます。引き続き、各団体の皆さんにはご協力をよろしくお願いいたします。

また、この協議会にはコーディネーターとして、これまでも引き続きまちづくりにご協力をいただいております〇〇大学の〇〇先生にも本日お越しをいただいておりますコーディネーターとして様々なご助言をいただきながら進めてまいりたいというふうに考えておりますので、〇〇先生もよろしくお願い申し上げます。本日皆様から様々なご意見をお聞かせ願ひながら会議を進行していきたいと思ひます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。本日のご出席誠にありがとうございます。

【事務局員】

それでは、これより議事に入らせていただきたいと思います。議事進行につきましては協議会規約により、会長により進行していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

はい。それでは次第に沿って進めさせていただきます。

まず①令和7年度日本遺産地域活性化推進事業報告および収支決算について事務局から説明をお願いします。

【事務局員】

はい。それでは着座にて私の方で令和7年度江差町日本遺産地域活性化推進事業に係ります実績報告につきまして、ご説明させていただきます。資料につきましては事前にお配りしております資料1から3までをご覧くださいと思います。

なお、事前に議案配付してございますので、主要の取り組みを抜粋して説明させていただきますと思います。まず1ページ目から5ページ目につきましては町内および道内道外におきますプロモーション活動といたしまして、PRおよび誘致

宣伝の取り組み実績でございます。その中で抜粋していくつか説明します。②番、第3回江差ににしえバル街につきましては、江差ににしえバル街実行委員会の主催イベントでございます。いにしえ街道を会場に開催されました江差ニシンの会に加盟している町内飲食店によりまして、出店協力をいただきながら、江差産ニシンを活用した創作料理の販売などを通して、日本遺産ストーリーの根本である江差産ニシンのPRおよび町民などの来場者へ普及促進を図ったところでございます。

続きまして、④番、日本遺産フェスティバルおよび⑦番、日本遺産マルシェにつきましては、例年の文化庁主催のもので、日本遺産フェスティバルでは10月に岡山県倉敷市で、日本遺産マルシェでは2月13日が日本遺産の日ということで、2月に東京都有楽町にて開催されました。当協議会からは出展ブースにより、ニシンを用いた特産品等販売を通しまして、PRを実施したところでございます。順番が前後してしましますが、⑥番江差町歴史再発見 in 札幌チカホでございますが、一般社団法人江差町歴史文化再生機構の主催イベントといたしまして、本協議会が後援という形で日本遺産の町として道民へ広く理解普及促進を図るため、日本遺産に関わるアンケート、江差追分の披露、ミニ体験セミナーを通じてPRを実施したところでございます。

続きまして、6ページ目以降につきましては具体的に展開をさせてもらった実施事業の説明となります。まず、6ページ目、⑨番、地域観光魅力向上事業でございます。こちらにつきましては、観光庁の補助事業が採択をされたことを踏まえまして、記載の主な内容のアからカまでの事業を一体的に実施しまして、日本遺産を通じた地域活性化計画に登載してございます5つの事業を包括的に展開したものでございます。一つ目が日本遺産体感ツアーコンテンツの造成です。お配りしております資料2と併せてご確認いただければと思います。⑨番のアとイでございますが、日本遺産ストーリーによります収益性および町内への経済波及効果を生み出す体感ツアーを造成したところでございます。資料2をご覧いただきたいのですが、江差町が持つ歴史文化と自然資源をフル活用したオンリーワンのツアーは全部で3本造成いたしました。

1本目は8ページ目の江差ににしえ街道ストーリーガイドツアーは皆様ご承知の通り、北前船によりますニシン交易で栄えた町といたしまして、当時の町民たちの仕事や暮らしを、参加者が町人としてなりきって体感できるツアー内容でございます。当時、ニシン運搬に使われた背負い箱「モッコ」と言われるものを実際に背負っていただきながら、観光ガイド員の案内によりまして、いにしえ街道内を散策するものでございます。散策途中にはニシンを積んだ際の近い重さを体感していただく他、実際に作業を終えた後に、その対価（証）として番棒というものが当時渡されていたようで、それも再現し、参加者の皆様にはその番棒を渡し、500円分の割引券として、加盟店舗で使えることができてまして消費喚起に直結される工夫も盛り込み追体験できる内容となっております。

2 本目につきましては、江差商家「旧中村家住宅」で北前船文化が育んだ江差追分と郷土料理の体験でございます。普段貸切ることができない国指定重要文化財でございます旧中村家住宅の2階を貸し切りしまして、地場産ニシンを活用した江差町の郷土料理を味わいながら、江差追分の生演奏を堪能できる内容となっております。かつて重要な商談が行われていたとされている特別な2階の座敷において、特別感あふれる時間を送ることができるものとなっております。

3 本目につきましては、北前船交易とかもめ島が育んだ江差商人宴席なりきり体験でございます。江戸時代のガイドブックや江差屏風にも書かれております江差商人の宴席というものを実際に再現した内容でございます。かもめ島から望む日本海を眺めまして、郷土料理を味わいつつ、江差追分や江差追分踊りを通じて宴席を追体験できる江差町ならではの歴史文化を五感で感じる内容となっております。

なお、1 本目および2 本目につきましては、令和7年度内におきましてモニターツアーなどを経て、既に北海道江差観光みらい機構の商品として販売しているところでございます。最後に説明しました宴席体験につきましては、令和7年度中に季節ですとか、気候の条件などにより、モニターツアーが実施できなかったため、現在令和8年度内において本格的に販売開始に向けて更なる磨きかけを行っているところです。これらの体感ツアーの商品詳細につきましてはご覧いただいている資料2により詳しくお読み取りいただければと思います。

続いて資料1に戻っていただきまして、7 ページ目からの説明となりますが、7 ページ目から8 ページ目の⑨番力までが先ほど説明した体感ツアーの催行にあたっての関連事業となります。まず⑨番ウの造成したツアーにおきまして、観光ガイドによるガイダンスを補足もするものとしまして、いにしえ街道内のほかかもめ島を中心に視覚的に理解が深められるよう町内11ヶ所のガイディングの案内板を整備したところがございます。

8 ページ目に移ります。⑨番力でございます。当協議会で、既存に運営しております日本遺産ウェブサイトに対しまして、体感ツアーのプロモーションサイトおよび予約ページを増設しました。

また、JTB BOKUN という観光事業者や自治体向けのオンライン予約在庫管理システムにこの情報を搭載しまして、販路拡大に向けて環境を整備したところがございます。

続いて9 ページ目に移ります。令和6年度に組み立てをしました日本遺産ストーリー周遊マップを構築しました。この周遊マップを活用いたしまして、観光客などに日本遺産ストーリーの一つ一つの構成文化財への理解を深めてもらいながら周遊ができるよう、クイズラリーおよびスタンプラリーを開始したところがございます。年間を通じてクイズラリーには205名に参加をいただきました。

一方、スタンプラリーにつきましては109名の方々に参加をいただいたところがございます。

なお、クイズラリーの正解者の方につきましては抽選により、江差町の特産品、またスタンプラリーの完走者の方には、町内加盟店舗で利用できる 200 円分の割引券を付与しているところでございます。

12 ページ目に移ります。江差ニシンの会につきましては令和 6 年度で、ニシン関連の商品を製造または販売する事業者が組織化をいたしまして、ニシンの魅力の見つめ直し、美味しさを再発見、発信を図る団体でございます。令和 8 年 3 月時点で町内 20 事業者の方々に加盟していただいているところでございます。座談会などを通じまして個店による取り組み内容や会員の拡大に向けて意見交換をしたところでございます。

続いて 14 ページ目に移ります。その他の実施事業のうち、経済波及効果等委託調査につきましては、お配りしてあります資料 3 と併せてご確認いただければと思います。町内における観光事業所の実態が見える化するものでして、現行の日本遺産地域活性化推進事業の効果測定を図ること、また次期活性化計画に向けて、分析および政策立案を実施するための調査でございます。成果品につきましてはページ数が膨大だったこともありまして、今回調査概要のみをお伝えしてお配りはしてございませんが、希望がございましたら、紙面あるいはデータにて情報提供させていただきますのでお申し付けいただければと思います。

最後に 15 ページ目でございます。最後は役場内での取り組み内容であります。令和 6 年度より町や教育委員会において、ニシン文化の紐づく行事などを情報共有するため、意見交換の場といたしまして、横断的なプロジェクトチームを立ち上げたところでございます。効果的な日本遺産事業の展開に向けて実施をしてございます。令和 7 年度中におきましては、主にニシンの稚魚の放流をはじめといたしまして記載の取り組み内容となっています。以上、令和 7 年度実施事業報告をさせていただきました。

続きまして、令和 7 年度収支決算をこのまま報告させていただきます。資料 4、決算書をご確認ください。決算額のみご報告をさせていただきたいと思います。

まず収入の部です。前期繰越金が決算額 16 万 3,299 円。江差町補助金が 1,548 万 5,000 円。観光庁補助金（地域観光魅力向上事業）につきましては 604 万 8,000 円。北海道補助金（地域づくり総合交付金）が 330 万円。雑収入が 1 万 5,397 円、合計が 2,501 万 1,696 円となります。

なお、当初予算より 936 万 2,696 円増額となっておりますが、増額要因につきましては先ほどご説明しました通り、国および道補助金の事業の採択を受けたものでございまして当初予算において未計上だったことによるものでございます。

次に支出の部でございます。同じく決算額のみご報告させていただきます。日本遺産地域活性化推進事業決算額 1,669 万 8,184 円となります。内訳につきましては、先ほど実績報告で説明しました通り日本遺産体感ツアーの造成を初めとします関連事業の経費となっております。

続いて、江差町補助金返還額 720 万円、一般事務費 6 万 6,678 円。内訳といたしましては、日本遺産連盟負担金が 2 万円、コーディネーター招聘が 3 万 4,632 円、その他会議出席および事務費といたしまして、1 万 2,046 円です。以上の合計が 2,396 万 4,862 円となります。

なお、当初予算より 831 万 5,862 円が増額となっておりますが、主な増額要因といたしましては収入の部でご説明しました通り、重複いたしますが、国等の補助金の採択を年度内で受けたことに伴いまして、それらを事業費に充当した結果、当初予算において計上していた江差町補助金において不用額が生じたことにより、返還したものでございます。

よって収支差引につきましては、収入額 2,501 万 1,696 円に対しまして、支出額 2,396 万 4,862 円により、差し引き 104 万 6,834 円が令和 8 年度の繰越額となります。説明は以上となります。

【 会 長 】

あわせて②の令和 7 年度江差町観光まちづくり協議会会計監査報告についても報告をしていただきたいと思います。

監事の〇〇さん、よろしくお願いいたします。

【 監査：監事 】

はい。それでは監査報告ということでさせていただきたいと思います。5 月の 29 日に監査をさせていただきました。監査した内容につきましては、関係書類あるいは預金通帳等を確認させていただいたところでございますけれども、これといって特に問題はないということで確認をさせていただきました。適正にきちんと整備されているという状況でございます。

したがって、正当であるということを確認、報告をさせていただきたいと思います。今事務局の方から報告がありました通り、収入の方につきましては 2,501 万 1,696 円。支出が 2,396 万 4,862 円、差し引き 104 万 6,834 円という状況でございます。以上でございます。

【 会 長 】

ありがとうございます。ただいま説明いたしました①、②について皆様からご質問をお受けしたいと思います。何かございませんでしょうか？

【 構成員 1 】

質問ではないんですけど、資料 1 の第 3 回江差いにしえバル街の日付が、令和 8 年 6 月 21 日だった。土曜日 20 日なので 21 日は日曜日だと思うが。

【 会 長 】

すみません。事務局お願いします。

【 事務局員 】

はい。すみません資料の方訂正させていただきたいと思いますので、申し訳ございませんでした。

【 会 長 】

いや、今多分ご質問は 20 日が土曜日今年は 20 日ではないかという質問ですけども。

【 事務局員 】

昨年のもので、令和 8 年から令和 7 年が正でございます。はい。昨年度の令和 7 年度の実績報告ということで申し訳ございません。

【 会 長 】

しかも 6 月じゃない 5 月なんですよね。6 月か。他に何かご質問ございませんでしょうか？よろしいでしょうか？

それではこれでご承認いただくということでよろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。

続きまして③の令和 8 年度日本遺産地域活性化推進事業計画および収支予算について説明をお願いします。

【 事務局員 】

はい。それでは引き続き私の方から令和 8 年度江差町日本遺産地域活性化推進事業計画につきましても主要の取り組みのみ抜粋してご説明させていただきたいと思います。資料 5 をご確認くださいと思います。

まず、今年度につきましては認定継続の審査の年でしたが、江差町の審査が令和 9 年度に延期されたことを踏まえまして、文化庁の通知により、今年度につきましても現行の地域活性化計画に基づいた取り組み事業を継続することといたしまして、令和 7 年度事業の継続および磨き上げを展開してまいります。

まず、情報発信および誘致宣伝につきましては、既存の日本遺産公式サイトの有効的な活用と、江差町にて 3 月に採用しました日本遺産推進担当の地域おこし協力隊が開設してございます SNS とも連動しながら、全国、全世界に情報発信を図っていくところでございます。

また、町内外を初めとします各種プロモーションへ積極的に参加出展を通じまして、誘致宣伝を継続してまいります。

次に、観光事業の充実化および普及啓発につきましては、日本遺産ストーリーの認知度向上を図るため、令和 7 年度より取り組みを開始いたしましたスタンプラリーおよびクイズラリーを継続して実施してまいります。江差町の観光案内所で周遊の起点となっておりますガイドンス施設内に設置してございます日本遺産ストーリーや各日本遺産の構成文化財などの解説版パネルの増設を通じまして、さらに深い理解が来町者の方々に図られるよう、ガイドンス内容の充実を図っていきたいと思っております。

最後に実績報告でもご説明させていただきました、昨年度造成した日本遺産体感ツアーのうち、現時点で未完成でございますかもめ島の宴席の体験ツアーの補完に向けまして、更なるブラッシュアップをしていきたいと思っております。

なお、本年度につきましても、先ほどご説明しました構成文化財の解説版のパネルの事業に対しまして財源の確保の一つといたしまして、文化庁ですとか北海道様の補助金に引き続きエントリーをしていきたいと思っております。以上、令和 8 年度事業計画を説明させていただきました。

続きまして、令和 8 年度収支予算案を説明させていただきたいと思います。資料 6 をご確認ください。本年度予算額のみご説明させていただきます。

まず収入の部です。前期繰越金が 104 万 8,634 円。江差町補助金が 1,087 万 9,000 円。雑収入が 366 円、収入の部合計が 1,192 万 8,000 円でございます。

続いて支出の部です。こちらも本年度予算額のみご説明させていただきます。日本遺産地域活性化推進事業 1,155 万 4,000 円、内訳は記載の通りとなっております。次に、一般事務費 37 万 4,000 円、同じく経費につきましては記載の通りとなっております。支出の部合計が 1,192 万 8,000 円で、収支同額となっております。以上令和 8 年度収支予算案となります。以上です。

【 会 長 】

はい。今、③の令和 8 年度日本遺産事業についての予算と計画について説明をさせていただきました。

皆様何かご質問はございませんでしょうか？はい。まず構成員 2 さんお願いします。

【 構成員 2 】

何かあるのかなと思ってちょっと聞きたかったんですけど、令和 8 年度の予算額、前期繰越 104 万 8,634 円って書いてるんですけども、7 年度執行残で 104 万 6,834 円だと思うんですけどもこのプラスちょっとした金額なんかだったりするんですか。差額はどうなってるか。

【 会 長 】

執行残の数字と前期繰越額が若干違うというご質問です。

【事務局員】

大変申し訳ございません。記載のミスでございまして、正しくは令和7年度の決算書の繰越額104万6,834円が監査を受けた正の金額でございますので、転記誤りとなります。資料の方に不備があったということで、申し訳ございません。ありがとうございます。

【会長】

今の資料6の方を修正することで、予算案の方を修正させていただきたいと思います。そしたら、これ縦で足していくと、数字は合うんですか。そしたらやっぱりここで承認をいただかなければならないので、雑収入はいくらなんですか。

【事務局員】

申し訳ございません。この場で収支予算を訂正させていただきたいと思います。

まず、前期繰越金につきましては先ほど申し上げました104万6,834円。江差町補助金につきましては1,087万9,000円。雑収入につきましては2,166円というふうに修正させていただきたいと思います。

【会長】

大変申し訳ございません。数字の訂正、ご指摘ありがとうございます。

合計は変わらず雑収入で調整をします。今の指摘は差し引きが変わるんじゃないかということなので、改めて今年度予算のところは先ほど数字を説明しましたけれども、差引のところがまた計算をし直さないといけないのでその点についてはしっかり改めて、一呼吸おいて、しっかり正しいものを皆様にご提示をさせていただいて、後日配らせていただければなというふうに思います。今ご承認いただきたい部分としては、本年度の予算額として先ほど説明した数字というところで、ご理解をいただければなというふうに思います。構成員2さん指摘ありがとうございます。

※後日訂正書類を関係者に配布済

【会長】

その他質問として構成員3さん、どうぞ。

【構成員3】

私の方から先ほど新しい商品として、三つほど出来上がっています。ガイド協会の方でも、それに対応するという体制というかそういうのを確認しているんですけども、その事業自体の実施というのは例えばやればですが、新聞等にも出ると思うんです。あの事業の実施もさることながら、そういう事業に応募する

と、多数応募してもらわなければ商品ですから、やはり売れなきゃ上手くないなという気がするものですから、そのための PR を、国内外問わず、やっぱりすべきだなというふうに思います。新聞報道でも、台湾の方にそういう宣伝をしたということになると、5 倍 6 倍のそういう効果が出ているということが報じられているのも鑑みますと、そういう宣伝 PR というのも、この予算の中に入ってるかもわかりませんが、そういうことをきちっとやっぱりやるべきだとそういう時期に来たと私は思いますので、そのところをよろしくお願いしたいなというふうに思います。以上です。

【 会 長 】

はい。新しくできた商品についての PR。特に海外に向けてすべきではないかというご意見でございました。

【 事務局長 】

今の質問についてです。

まず現時点でのこのプロモーションというところでは、2 月に函館圏で PR も含めて、ホテル等にチラシも配布させていただきました。その他、観光協会等々、関係機関の方にも連携の方を求めてきております。同様に 3 月に札幌圏の方でも同じようにしております。

また、旅行会社との繋がりも持ちたいということで、商談の方にも参加をしておるんですが、なかなか商品としてうまく結びついていない、連携できていないというのが正直なところではありますが、そういったプロモーションの場面商談も含めて、今ご指摘の意見の通りいろいろと PR っていうところで実施をしていきたいなというふうには考えてございます。

この後、私どもの事業計画の中でも説明の方しようとは思ってたんですが、実は函館市さんの方とはいろいろと連携の方させていただくお話になっておりまして函館市さんの方で出向くいろんなプロモーションのときにも、函館の近隣の歴史体験ということで、江差の日本遺産のツアーの件も一緒に函館市の PR とあわせて PR していただけるというようなお話にもなっております。そういったところも通じながら、PR の方も進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【 構成員 3 】

やっぱりこういう PR はマスコミを活用するというか、そういうのが一番お金もかからないというか、お金がかからなくて効果があるというか、そういったことも含めて、例えば各新聞社とか、テレビラジオとかそういった方については、ともかく積極的にやっぱり行動を起こすということが大事なことのかなというふうに思いますので、よろしくお願いしたいと思います。以上です。

【 会 長 】

はい。ご意見ありがとうございます。その他皆様からご質問ございませんでしょうか？よろしいでしょうか？

ないようですので、③の令和 8 年度日本遺産地域活性化推進事業計画および収支予算についてご承認いただくということでよろしいでしょうか？はい。ありがとうございます。

それでは④令和 7 年度北海道江差観光みらい機構事業実施報告についてを議題といたします。みらい機構の事務局長説明をお願いします。

【 事務局長 】

はい。私の方から私どものみらい機構の実績報告をさせていただきます。資料 7 になります。よろしくお願いします。先ほどから事前配布ということで資料のポイントのみ説明させていただいておりますので、私の方もポイントを絞って説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは資料 7 のまず 1 ページ目になります。基本方針 1、課題 1 として町民の参加意識の醸成という欄でございます。このページにつきましてはページの右側、(2) 日本遺産における町民プレイヤーを巻き込んだ旅行プラン化について説明させていただきます。ここでの町民につきましては、町内業者、団体も含めて町民という表現の方をさせていただいております。まず協議会の日本遺産事業と連携しまして、記載の 3 本の日本遺産体感ツアーを令和 7 年度で、造成することができました。詳細につきましては先ほど日本遺産事業で説明がありましたので省略させていただきますけども、ツアーの実施に当たりまして町内事業者、追分会、観光ガイド協会といった町内の事業者さんですとか、団体の皆様にも協力をいただけることになっている他、ツアー終了後もまちなか周遊に繋がるよう、割引券の交付なども行いまして町内の経済波及に繋がるよう内容を仕立てております。販売は令和 8 年度から開始いたします。

続いて 2 ページから 3 ページになります。地域ブランド力の向上になります。これにつきましては、情報発信の内容のページになりますけども、情報発信につきましては、観光ポータルサイト、観光案内所を中心に行っております。それぞれの利用件数等につきましては記載の通りとなっております。観光ポータルサイトページビュー数が対前年に比べ利用が下がっております。その要因につきましても、3 ページの冒頭の方に記載しておりますので、お読み取りをいただければと思います。いずれにいたしましてもポータルサイトにおきましては、これまで同様、情報更新頻度の維持、観光案内につきましては、丁寧かつ親切な対応ということで業務の方を継続してまいりたいというふうに考えてございます。

続きまして 4 ページに移らせていただきます。ここは基本方針 2 になります。課題 3 の交流人口、関係人口の増加というところでございます。このページ右

側の（２）をご覧ください。道南圏における各種団体との連携状況について報告させていただきます。

まず昨年度の第１回の会議の際に、道南の中心都市であります函館市との連携方策についてご意見があったところでございます。令和７年度におきましては観光コンベンション協会と連携いたしまして、江差姥神まつりの体験ツアーの可能性について、函館の観光協会他関係者との意見交換を実施して交流したという実績がある他、２月に行いました日本遺産プロモーションにおいては、広域連携の観点から、函館市の観光サイトであります「はこぶら（函館市公式観光サイト）」に日本遺産のツアーを記事掲載していただけないかということでご依頼を申し上げたところ、ご承諾いただきまして、現在掲載中となっております。

同じ４ページ（３）のクルーズ船の関係につきましても、なかなか私どもクルーズ船の情報というのは入ってこないんですが、２月のプロモーションの際に商談会の情報等もいただきながら、町の方で参加をしてる実績もでございます。引き続き函館市と連携しまして、情報の交換等も行いながら広域連携できるよう繋がりを強化していきたいというふうに考えてございます。

続いて５ページ、６ページになります。滞在型観光の構築についてです。ここではかもめ島マリリンピングの実績が主な内容になります。利用件数につきましては、例年と比較してほぼ横ばいなんですが、物価高騰対策ということで令和７年度で料金の改定の方を行っております。そのおかげもありまして売り上げの方は増額となっております。ここで少し他の町との連携というところでは、厚沢部町の素敵な過疎作り株式会社との事業連携ができて、保育留学の家族をメインターゲットとして海遊びプランを新設したところ、多くの方々に参加をいただきまして、売り上げ増にも繋がっております。

このかもめ島マリリンピングにつきましては、当方の売り上げによる自己財源の確保という点では、一つうちの主要の事業ではあるんですが、ただそういう観点だけではなくて、参加いただいた方が町内で飲み物を購入していただくとか、温泉に入っただく、またキャンプ終わった後も、まち中でお金を使っただくといった町内への経済波及の視点も大事にしながら、お客さんと職員が普段交流の中でいろいろ情報を求められます。そういった情報の中でも、まちなか周遊に繋げるように引き続き江差町全体のPRにも努めてまいりたいと考えております。

続いて７ページ組織の基盤強化についてです。組織の基盤強化につきましては令和７年度でぶらっとの閉店がありまして、自己財源の確保といった運営面での取り組みが急務というふうになってございます。現状では先ほど言いましたかもめ島マリリンピングと、今新しく造成しました日本遺産ツアーが売り上げの柱に今後なっていくかなというふうに考えてございますけども、新たな財源確保対策の検討が大きな課題というふうになってございます。

また組織強化につきましては、職員を含む町内の人材育成というのにも必要とされます。職員におきましては、職員研修の実施の他、このページには記載はございませんけども、この協議会の事業としてガイド研修にもみらい機構として携わらせていただいております。そういった意味で人材育成についても取り組みの方進めていきたいというふうに考えてございます。

7 ページ右側下段にこれまで説明させていただいた内容を総括として記載しておりますので、お読み取りいただければなというふうに思います。

最後に 8 ページになります。今私どもが行っている中期計画の期間中における KPI の達成状況ということで、7 年度の実績を記載させていただいております。数値並びに分析と評価につきましては記載の通りとなっておりますので、お読み取りの方いただければというふうに思います。実績報告については以上です。

【 会 長 】

はい。ただいまの④のみらい機構の実績報告について説明をさせていただきました。皆様から何かご意見・ご質問はございませんでしょうか？

よろしいでしょうか？はい。ご質問ないようですので、この実績報告をご承認とさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか？はい、ありがとうございます。

続きまして⑤の江差町観光まちづくり戦略 DMO 中期計画について事務局長引き続き説明をお願いします。

【 事務局長 】

それでは令和 8 年度の事業計画になります資料 8 をご覧ください。

この中期計画の 2 年目となります令和 8 年度の活動についてですが、それぞれの課題ごとに実行計画を活動目標という形で掲載しておりますので、まずあらかじめご理解いただければなというふうに思います。

まず 3 ページの基本方針 1 です。ページ右側に記載しております昨年度造成しました日本遺産ツアーにつきましては、モッコ体験、中村家のツアーにつきましては町内の関係者のご協力をいただきながら、今年度 5 月から販売を開始してございます。

モッコ体験につきましては、既に 5 月 9 日アメリカからのお客様 2 名に申し込みいただきまして、催行の方させていただいております。

三つ目の江差商人宴席なりきり体験ツアーにつきましては先ほどの日本遺産事業でも説明ございましたけども、まず 6 月に外国人を招いたファムトリップを実施後、8 月の販売に向けて今、目指して準備を進めてございます。このツアーを通じまして日本遺産事業の充実と、町内の活性化に繋がるようポータルサイトでの情報発信の他、商談会参加等プロモーション活動にも努めてまいりたいと考えてございます。

続きまして 4 ページになります基本方針 2 についてです。ページ左側、交流人口関係人口の増加につきましてなんですが、今年につきましても道南圏の連携強化の方を図ってまいります。先ほど一部質問の中でご説明させていただきましたが 5 月に函館市役所を訪問させていただきました、今年度も継続した連携をお願いしてまいります。函館市が行う国内や海外での商談やプロモーションの際に函館市の活動とともに、近隣で体験できる歴史体験として、江差のこの日本遺産ツアーの方も広域連携の観点から紹介いただけるということで了解をいただいております。

右のページに移りましてかもめ島マリリンピングの運営についてです。これにつきましては昨年 9 月に、インターンで受け入れした函館教育大の学生の提案なども参考にしながら、学生割プランの他リピーター割などの割引プランを新設しながら誘客に努めてまいります。

続きまして 5 ページ、組織の基盤強化についてです。組織の運営費につきましては、町からの補助金が今現在メインという形になってございます。先ほど実績報告でも説明させていただきましたけども、我々、自分たちで自主財源の確保というものに努めていかなければなりません。その中で補助金をなるべく緩和できるように運営していかなければならないというふうにも考えてございます。

これにつきましては、なかなかちょっと難しくて時間かかる課題というふうには捉えておりますけども、新たな財源方策あと組織のあり方も含めた中で、検討の方進めていきたいというふうに考えてございます。職員研修と人材研修につきましては、継続して取り組んでまいります。

また新道の駅の開業を見据えまして道の駅運営者との連携ですとか、あとそれに伴いまして町内の観光事業者との連携につきまして、それぞれと協議しまして、繋がりを深めてまいりたいというふうに考えてございます。

それと最後に計画書の方には記載はございませんが、情報提供としまして、私どもみらい機構の DMO という資格の更新申請が 9 年度になってございます。更新申請に当たりまして国から新たなガイドラインが示されておりまして、現在、中期計画というもののうちで我々計画を進めているんですが、その中期計画に代わるものとして観光地経営戦略書の作成が義務付けになったり、あと、今 4 項目 KPI として定めておりますけども、KPI も増加してくださいってというような中身になってございます。これにつきましては、今年度中に整理しまして素案をまとめたいというふうに考えてございます。

戦略書等の作成につきましては、また皆様からご意見を賜る場を設けて、ご意見の方賜りたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。令和 8 年度の計画につきましては以上になりますけども、私ども DMO として観光事業者との繋がりの強化、町内への経済波及というのを常に意識しながら活動に取り組んでまいりたいと考えてございますので、引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。以上です。

【 会 長 】

はい。ただいま⑤の観光まちづくり戦略 DM0 中期計画については説明させていただきました。

皆様からご質問ご意見はございませんでしょうか？何かございませんでしょうか？はい、どうぞ。構成員 4 さんお願いします。

【 構成員 4 】

今の観光みらい機構さんの中期計画の中で、やはりキモとなりますのは、道の駅が出来上がった時に、みらい機構さんと道の駅がどう上手く連携して、江差町の負担金を減らしていくかが一番ネックになってくると思いますので、この会議がもし第 2 回第 3 回とあるのであれば、ぜひとも来年の 6 月ぐらいにもオープンになるんでしょうけど、事業者の思いもそれなりに相当関係してくると思いますので、オブザーバーとしても入れるとか、何か別個どんどん協議していただくとか、そういう方向性っていうのがあるのかないのか、お願いいたします。

【 会 長 】

はい。道の駅事業者との連携についてというご質問でございます。

【 事務局長 】

はい。道の駅事業者との連携についてということでお答えさせていただきます。

私どもみらい機構としまして、これまで事業者さんとは特にかもめ島マリンスポーツの分野で 2、3 回ほど意見交換させていただいております。ただ具体的にどう連携していくかという具体的なところまでは話に至っていないというのが現状でございます。これから、いろいろと建設も進んでいきますし、中身も具体化していくかと思います。都度皆様にご報告するような内容が生じましたら、こういった機会を通じて、ご報告させていただきたいというふうに思います。会議の中の参画という部分は、ちょっと内部でその進め方がいいのかどうかも含めて協議をさせていただきます。

【 構成員 4 】

はい。

【 会 長 】

よろしいでしょうか？はい、ありがとうございます。他にご質問、ご意見ございませんでしょうか？よろしいでしょうか？

ご質問、ご意見ないようですので、⑤の観光まちづくり戦略 DM0 中期計画についてご承認させていただきたいということでよろしいでしょうか？

はい。ありがとうございます。ただいま議事の①から⑤まで終わったところでございます。議事議題が終了いたしました。

ぜひ、オブザーバーの金融機関あるいは振興局教育局の皆様からのご発言をいただけたらなというふうに思っています。何か情報提供であるとか、あるいはご質問ご意見があればぜひご発言いただきたいんですけれども、いかがでしょうか？特にございませんでしょうか？よろしいでしょうか？

はい。ご発言がないようですのでありがとうございます。引き続きオブザーバーの皆様から様々なご助言いただけたらなというふうに思っております。

次に⑥まとめとして、コーディネーターの〇〇大学の〇〇先生からご発言ご助言あるいはご意見をいただければなと思いますのでよろしくお願いいたします。

【 コーディネーター 】

はい。〇〇です。皆さんこんにちは。

本日は昨年度の事業報告と事業の決算そして今年度の事業計画と収支予算ということで、皆さんにご承認いただくという作業があったと思います。皆さんご承知の通りといいますか、先ほどもお話がありましたが、道の駅の話が大きく進みだしているのが今年の状況だと思います。

その中でみらい機構が、先ほどちょっと過去の資料を見ていると、2016年に観光戦略を策定しちょうど10年経ちます。その後、みらい機構が立ち上げられて、紆余曲折コロナも含めて、取り組みを進めてきたところかなと思いますが、コロナも落ち着き、実際インバウンドも含めて観光自体は大きく今展開をしていっている中で、江差に来る人がコロナ前と比べると、実態としては少ない。KPIに挙げられている数字が、達成できない状況にあるかなと思っています。

それは江差だけじゃなくて、函館を見ても数字自体は、上がっているんですが一部の場所と時間に集中している。混雑ぶりみたいなのは紹介されますが、でも一方で湯川とか、なかなか思うようにいかないところが、いろんなところで起こっている状況かなと思います。特に先ほど皆さんのやり取りの中にあったと思いますが、昔は団体旅行でこの辺でいうと大型バスで、お客さんがバーっと連れてこられて、観光して帰ってもらえるというという状況だったかなと思うんですが、函館も含めて、函館でも100台以上そういう貸切バスを配備するという。今はだいが高いですよ。安くても3,000万高いと1億以上するので、なかなか老朽化したバスを更新できない。2024年問題みたいなのも、お客さんとどう繋がるかみたいなところが、すごく大きなテーマになっているかなと思います。

一方で、昨年の事業報告の取り組みの中で、少し魅力的な体験プログラムの開発みたいなことも行われていて、それをどう売っていくかみたいなところがとても重要になってくるかなと思っています。例えば、北海道で言うと千歳に冬限定から始まりますが、アメリカとか、カナダとか、北米との直行便が今年度から就航するようになってきます。なので北海道にも、これまでアジア中心って言われて

ましたが、北米からのお客さんが増えてくるかなという予測がされていて、札幌でもその北米のお客様を取り込むかみたいな話がとても動き出しています。もちろん自然体験みたいなものもあるんですが、やっぱりアドベンチャートラベルと言われてましたが、北海道の文化と知りたいっていうニーズが一番高いっていう数字が出ていますので、そこで動くのは江差しかないんじゃないかなと思うんですが、うまくそこと繋げられるかみたいなところがあるかなと思っています。

先ほど観光クルーズ船の話とかもありましたが、私も小さいながら函館でも昨年ぐらいから活動しているんですが、今年から結構ラグジュアリーなクルーズ船が函館に新たに就航するんですね。一つはリッツカールトンがやるようなものや、シルバームーンとか、全室スイートルームみたいな。後は、シーボーン・アンコールみたいなものが。本当に世界最高級のラグジュアリー船が函館に初めて就航するようになってきています。彼らもバイヤーさんが結構回って行って、私が活動している昆布セラピーって昆布の美容エステみたいなものを観光庁の事業を使ってこの数年で開発してきたんですが、1人当たり10万円でも安いねと言って、もうお客さんを連れてくるみたいな話をしてくれているんです。今年度それで受け入れ数が限られてるっていうのもあるんですが、結構キャパいっぱい受け入れられるかなと思っています。

なので、それは先ほどの函館市観光部との連携が重要になってくるかなと思うんですが、そういうバイヤーさんが函館だけじゃなくてそういった文化体験できるところを、すごく求めているということが私自身も実感として昨年感じていましたので、そういうバイヤーさんをうまく江差まで連れてきて半日寄港していたりしますので、頑張って江差に来て2時間ぐらい体験してまた函館まで戻ってもらうみたいなこととかっていうのはあり得るのかなと。結構な金額を平気で払ってくれるかなと思っているので、その辺りも含めて、しっかりと戦略をとっていければいいかなと思う。

先ほど江差が10年という話をしましたが、皆さんこれもお承知の通り、札幌のDMOが昨年、私もお手伝いさせてもらってようやく戦略書を作りました。

まず、札幌観光協会がベースとなって動くんですが、今年から本格的に動いていきますが、やっぱり大きな柱としては、一つは経済波及効果ですね。当然なんですが、札幌だと1兆円から3兆円に伸ばそうみたいな話をしています。

一方で、これは世界の潮流なんですけど、市民っていうか住民の幸福度もKPIでという話で、観光をやることで市民が幸せになるということをしっかりとやっていくと、オーバーツーリズムで余計なハレーションが起きないとか、住民の人たちの協力も得やすいということで、こちらの方も入れていくという話と、あと札幌の場合はちょっと環境が違わないので必ずしも言えないと思うんですが、あんまり個別の事業はしない、直営事業しない、だから今、人を何人か雇い始めていますが全員マーケティングの専門家、みたいな形でちゃんと町の観光地経営のかじ取り役としての役割を果たしていこうというところなんです。

先ほどもありました観光庁が求める基準がかなり大きくなってきていて、データに基づいてちゃんとやりなさいみたいな話をしていて、これもうまくつき合っていないといけないんですが、でもデータをちゃんと作る。

私が問題だなと思ったのは、KPI のところで、リピーター率が低いんですよね。江差こそ、リピーター率を上げないといけないんじゃないかなと思うんですね。多くのお客さんがどんどん来てくれる環境じゃないので逆に言うと、江差に何度も来たいみたいに。お客さんを増やしていくためにリピーター率がすごく重要ですが、ここはなかなか上がっていないということを考えると、CRM って言いますが、お客さんとの関係をどうするべきかという仕組みを作っていないといけないと思っています。やらないといけないんですが、10 年たっても満載なんですけど、ようやく道の駅も含めて、前が見え始めた状況かなと思っていますのでぜひこの 1 年で一步も二歩もさらに前進できるように、この協議会中心に進めていただければ幸いかなと思っています。以上になります。

【 会 長 】

ありがとうございます。ただいま事例含めて、昨今の観光の状況であるとか DM0 の状況をご発言いただきました。特に KPI に住民の幸福度なども考えたらどうかというご提言をいただいたところでございます。

ありがとうございます。それでは、これで議事は①から⑥終えさせていただきます。大きな 4 としてその他でございますけれども、その他ということで道の駅に関しましてまちづくり推進課から今の状況を説明させていただきます。そして皆様からご意見などをいただきたいというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

【 江差町 まちづくり推進課 】

はい。皆様こんにちは。まちづくり推進課の〇〇です。

私からお話させていただきたいことは、新道の駅整備運営に関して大きく 2 点ございまして、運営主体となる協同企業体と協議会の皆様との意見交換の場を設けさせていただきたいということと、これまで仮称しておりました道の駅の名称につきまして、冒頭に町長からもありましたが正式名称を提案させていただきますので皆様にご賛同いただきたいという 2 点でございます。お手元に資料をお配りさせていただきました。これまでの簡単な経過を交えながら説明させていただきたいと思います。北の江の島構想（仮称）かもめ島の整備事業について、お配りした開催資料の 1 ページ目をお開きください。

まず、道の駅整備運営手法について、これは皆様ご存知の通りだと思いますが、整備運営にあたっては設計から建築、運営までを一括で民間活力を導入する DB0 方式を採用しておりまして、民間のノウハウで経営の効率化を追求し柔軟な事業展開で、地域振興や経済効果の最大化を目指すものでございます。

次のページをご覧ください。運営事業者の決定と今後についてでございますが、運営事業者は昨年6月実施のプロポーザルの結果、道内事業者や町内事業者など10社によるコンソーシアム等基本協定を締結しまして、今年の4月議決を得まして、正式な事業計画を取り交わしたところでございます。10社の詳細は資料の下段に記載の通りでございます。正式契約後は、コンソーシアム側では、町内各所で整備や運営に関する説明と意見交換を行っておりまして、まちづくり懇話会で住民の皆様との対話をスタートさせたところです。今後は8月と12月に、月1回の住民協議会を開催して、地域の皆様との対話を重ねながらその準備を進めてまいります。

次のページをご覧ください。このように町内各所で対応を進めている中で、観光まちづくり協議会、観光まちづくりの中核を担っておられます皆様との対話は不可欠と考えておりまして、意見交換の場を設けさせていただこうと考えております。日程は左下に書いてございますが、7月15日水曜日の午後に予定しております。詳細な時間はおってお知らせをいただきます。

なお、当日はコンソーシアムから、事業概要や今後の運営ビジョンをご説明させていただきます皆様からご意見やご助言を頂戴したいと考えておりますので、ご出席のほどどうぞよろしくお願いいたします。

次のページをご覧ください。最後でございます。道の駅の正式名称についてでございます。これまで仮称でかもめ島としてきましたが、コンソーシアムと協議を重ねた結果、正式名称は「道の駅江差かもめ島」としたいということでございます。

町名の江差を追加した理由といたしましては、資料コンセプトに書いてございますが、地名と町のシンボルを一体で発信することによる地域ブランド力の向上というものを旨とするものでございます。

また、資料の右側に掲載した施設のイメージですとか施設のコンセプト、多世代の町民の皆様が日常的に集う憩いの拠点というコンセプトを踏まえつつ、道の駅の魅力的なキャッチコピーを住民懇話会通じて地域の皆様と一緒に考案していく予定です。

もう一点、資料には記載ありませんが、町内に2つの道の駅ができることから、既存の道の駅もその特徴を表すものに名称変更しようというふうに考えておりまして、現在地域の皆様と協議を重ねているところでございます。既存の道の駅、尾山町の道の駅ですが、名称の候補としては「道の駅江差繁次郎」や「道の駅江差繁次郎浜」などがあります。以上、新しい道の駅の江差かもめ島という名称につきまして観光まちづくりの中心団体であります皆様のご賛同をもって、正式決定としたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。私からは以上です。

【 会 長 】

はい。ただいま、新たな道の駅についてのご説明をさせていただきました。これまでの経過と、一番は名称を「江差かもめ島」にしたいというところでございます。

少し補足ですけれども、今ある尾山町にある道の駅は、道の駅江差という名前です。新しくできる道の駅と今のある道の駅二つになりますので、きちんと名称を定めた中で住み分けをしていきたいなと思っています。そういった中では、江差という名前はどちらにも入れるべきではないかということを議論してまいりました。それは様々な検索をする上で江差という文字がないと、検索に引っかからなかったりというところで、江差は入れるべきではないかという議論になったところです。

また、様々な公募みたいなことも考えてきたのですが、ここはやっぱりシンプルにかもめ島という名前を名前に付けるべきではないかという結論に至ったところでございます。皆さんからご意見をいただきたいと思います。何かご意見、オブザーバーの皆さんからご意見いただきたいと思いますので、何かご意見ご質問ございませんでしょうか？

【 構成員 5 】

ただ今、道の駅の名前を江差かもめ島にするということで、これはここで決めて決定ということになるという理解でよろしいですか。

【 江差町 まちづくり推進課 】

はいそうですね。正式名称の決定にあたっては、コンソーシアムと町と連絡協議会を持ってそこで協議をしてきたんですが、そこだけで決めるのはどうかというところで、観光まちづくりの中心団体より承認を得て、ここで決定させていただこうというところで、今ご提案差し上げているところです。よろしくお願いします。

【 会 長 】

はい。その他何かご質問、ご意見ございませんでしょうか？どなたか。はい、どうぞ構成員4さんお願いします。

【 構成員 4 】

大変いいと思っております。これでもし、今日ここで決まったらすぐ何か新聞とか、そちらの方に公表するなど、どういうふうにこのネーミングを、これからいろんなところに発信をしていくっていうのはどんなふう考えてるのか伺います。

【 江差町 まちづくり推進課 】

はい。私の方からお答えさせていただきます。

まず、今回ご承認いただきましたら、なるべく早く議会にも、ご説明をする必要があるかなというふうに思っておりますので、直近の議会で行政報告のような形でご説明をさせていただければというふうに考えております。基本的には対外に向けての公表については、その後になろうかなというふうに思っておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

【 構成員 4 】

はい、ありがとうございます。

【 会 長 】

その他名称自体についてのご質問あるいは、ご意見いただけないでしょうか？

【 オブザーバー 1 】 オブザーバー

すいません。いいですか。名前について何かあるわけじゃなくて、同じ町に道の駅が2個あるってなかなか私も回っているが、なかなかない。一つあるのは、江差のかもめ島、私もここに来たのでわかるし、繁次郎浜もいるからわかるんですけど、外の人から見たらそこって何だろうみたいなことに結構なるかな。

だから、2個の名前をつけるのはいいんですけど、きちっと差異を出すっていうか、どういう機能を持っているか、かもめ島の方が新しいので、いろんな機能が付くんだと思うんですけど、新しく名をつけるって、広報するときに機能とかそういうの詳しいことの発信を積極的にしていけないといけない。例えば、かもめ島に来たかったのに繁次郎浜に行ってしまったたり、なんかモヤモヤとする観光客も中に出てくるんじゃないかなと思ったので、ごめんなさい、ちょっと思いつきですけどお願いします。

【 会 長 】

ご意見ありがとうございます。何か担当が頭を悩ませているようですので私から。

まず今、既存にある道の駅はキャッチフレーズではないですけども、日本一小さい道の駅として売り込んでいるところでございます。そういうインパクトをもう少し与えながら、そこ繁次郎、繁次郎浜なのか新しく名称を変えて、そこはやっていく。

また、新しい道の駅の正式名称は江差かもめ島ですけども、キャッチフレーズみたいなものを作ってPRをしていきたいということが事業者からの提案でもございます。そういった新たなキャッチフレーズを、それぞれつけてきちんとわかりやすくすみ分けをしていきたいなと思い、今ある既存の施設は日本一小さい道の

駅、自称ですけれども、道の駅ということで売り込んでいますんで、目的が間違わないような PR の仕方をしっかり考えていきたいなと思いますんでご意見ありがとうございます。

他に何かご質問やご意見ございませんでしょうか？はい。構成員 4 さんお願いします。

【 構成員 4 】

先ほどと同じような PR ですけれども、昭和 61 年に北前船が開港したときに、NHK が、毎晩のようにあと何日で江差町の方につきますというコマーシャルとか宣伝をやったんですね。見た人方にはいついつに江差つくということが周知されたわけですよ。それと同じように、こちらの方の今こういう大がかりな施設が、出来上がるということからすれば、確かに難しい部分あるかもしれませんが、これもあと、例えば、いついつ江差かもめ島の道の駅が完成しますという報道とか、できればテレビだとかラジオが一番いいんでしょうけどもそういった部分の中で、ある程度期間を求めて宣伝をするということの方がよろしいのではないのでしょうかと思います。

【 会 長 】

はい、ありがとうございます。開業までのカウントダウンであったりというところで、PR に力を入れていくべきではないかということご意見です。

【 江差町 まちづくり推進課 】

はい。ご意見ありがとうございます。

PR も事前に絶対必要なものと考えておりまして、町のホームページもそうですし、各関係団体の協力を得ながら SNS への発信、またコンソーシアムの方でも SNS をこれから立ち上げて PR していこうという取り組みも入っておりますので、そういった中でしっかり事前告知っていうのをやっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【 会 長 】

少し付け加えさせていただいて、カウントダウンであったりとか PR をするためには、まず開業日を定めないといけないなということだというふうに思っています。そういった中では議会でも指摘されているので早く開業日を定めるべきだというご意見をいただいております。

今、建設に取りかかってきたところで、その開業日をなるべく早く定めないといけないなということを考えていますんでそれを定めた後には、大々的にカウントダウンであったりそういった PR 各種マスコミなどを使って PR できるように準備を進めていきたいということでございます。

ご意見ありがとうございます。はい。他に何かご意見ご質問はございませんでしょうか？よろしいでしょうか？はい。それでは新しい道の駅の名称は江差かもめ島で、江差町としては行きたいということで今後議会に提案をしていきたいなというふうに思います。ご意見ありがとうございました。

続きましてその他ということで事務連絡があればお願いします。

【 事務局員 】

はい。それでは皆様お疲れ様でございました。最後に事務局より、次回以降の協議会の開催につきましてご案内させていただきたいと思います。

まず、第2回目の協議会につきましては、先ほど江差町のまちづくり推進課からご案内ありました通り、7月15日水曜日午後より開催を予定してございます。別途、改めて皆様にはご案内の方させていただきたいと思います。

その他、日本遺産の次期認定に向けまして、これから皆様に来年度の地域活性化計画の骨子をお示させていただきたいと思いますので、皆様のご意見を吸い上げた上で、次年度の計画を策定していきたいと思っておりますので適宜また開催させていただきたいと思います。

あと最後に、本日予算資料等々不備ありまして大変申し訳ございません。修正したものにつきましては、後日皆様の方に手渡しあるいは郵送等でお渡しさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは本日第1回協議会終了させていただきたいと思います。